

シャイン 067号

働きやすい職場づくりを 目指して

大橋 祐介さん

会社名：茨城トヨペット株式会社

役 職：主任

資格等：産業カウンセラー、第一種衛生管理者



【受講のきっかけ】

私は現在、トヨタ全車種を取り扱う茨城トヨペット株式会社管理部人事課に従事し、主に人事労務・人事企画の業務を担当しています。養成講座を受講したきっかけは、産業カウンセラーの有資格者である職場上司から受講の勧めがあったことです。当時の自分を思い返してみると、「傾聴のスキルを身につけて、現業務に役立ててほしい」という上司の言葉に対して、仕事と講座の受講を両立させることができるだろうかと不安な気持ちになり、素直に喜べなかったことを記憶しています。

そこで私は、まず産業カウンセラーの資格を取得した後のビジョンを明確にすることから始めました。資格について調べるうちに、産業カウンセラーには「メンタルヘルス対策、キャリア形成、職場における人間関係開発・職場環境改善」の3つの活動領域があることを知りました。これらの活動領域は、私が担当していた人事業務と深く関連しており、受講を勧めてくれた上司が主業務として担う分野でもありました。

このようなことから、産業カウンセラー資格を取得して傾聴の学びを深めることで社業に貢献したいという思いが強くなり、養成講座の受講を決意しました。

【資格取得後の活動状況】

産業カウンセラー資格を取得した後、私は会社から、職場における人間関係の開発と職場環境の改善に関連した「E S（従業員満足度）向上プロジェクト」のメンバーに選出されました。E S向上プロジェクトは、「社員が自分の言いたいことを自由に言い合うことができる、

働きやすい職場づくり」を目的としており、職場における人間関係開発・職場環境改善に資するものとなっています。プロジェクトでは、現場で働く社員の声を吸い上げるためのE Sアンケートの実施や、社員の声を聞いて共に対策を考えていく職場懇談会の実施などを進めています。このプロジェクトに参画することは、養成講座での学びを実際の仕事に活かすチャンスであると捉え、私は積極的に運営に取り組むことにしました。

プロジェクトの運営にあたっては、メンバー間の議論を円滑に進行するとともに、個々の気持ちを大切にするために「傾聴技法」を用いる場面が多くあります。相手が伝えたいことの真意を理解することができるよう「事柄への応答、感情の反射、感情の明確化」等を取り入れるよう心がけています。講座のテキストや参考書等の各分野を読み返して振り返ることも多く、養成講座での学びが実務にも活かされていると実感しています。

今後はカウンセリングに関する自己研鑽を積みながら、メンタルヘルス対策やキャリア形成といった他の活動領域につながる業務にも意欲的に携わっていきたいです。養成講座での学びを日々振り返り、トライアルアンドエラー（試行錯誤）を重ねながらも、更なる自己成長につなげていきたいと考えています。